



こだいらNPOボランティアセミナー2014

成果発表会

日 時：9月21日（日）

午後1時30分～5時（開場1時）

会 場：福祉会館 3階 第1集会室

進行：学生2名（白梅学園大学・嘉悦大学 学生）

参加者：学生約30名・受入れ団体・一般・推進委員（参加大学教員・事務局）
計 約60名

13:30 開会挨拶

こだいら NPO ボランティアセミナー2014 推進委員委員長

齋藤 啓子 教授（武蔵野美術大学）

小平市社会福祉協議会 事務局長 有馬 哲雄

13:40 団体別学生代表による発表（1プログラム5分程度）

12団体の各プログラムに参加した学生から、パワーポイントを活用しながら、団体と活動の概要と気づきなどを発表しました。開会挨拶では社協の有馬事務局長より「言葉に詰まっても大丈夫」と激励を受け、学生同士ならではのユーモアも交じえて、仲間意識も追い風に、いきいきとした発表をしました。

（体験型）

① NPO 法人 子育てサポートきらら

気づき：理解し合える人たちが居ることが大切な「場」になっている。

② NPO 法人 こだいら自由遊びの会

学び：自由（安全も含めて）、考動（考えながら動く）、純粹（何も考えずに楽しむ）の3点と大人たちが子どもの目線になって遊ぶことの大切さ。

気づき：上記を大切にすることで子どもの未来が豊かなものになる。

③ NPO 法人 こだいらソーラー

気づき：発電の詳しいことはよく理解できなかったが、若い自分たちが環境問題を頭に置くことで、解決への一歩になる。

④ NPO 法人 小平ハートピア

学び：多世代で話し合うことの大切さ。

気づき：普段考えていることでも、もう一度考え方直してみると、忘れていることに気付く。

⑤ NPO 法人 コミュニティケアリンク東京

動機：通所サービスについて知りたくて選び、体験した。

気づき：職員一人一人が哲学を持っていながらだけた雰囲気で働いていることが「温かみ」となっていると思う。自分も勉強してそうした人間性を身に着けたい。

⑥ NPO 法人 NPO 法人 サポートクラブあすなろ

気づき：障害児が様々な人に接することが大切。

若い人・学生が今後もかかわることが大切。

⑦ NPO 法人 春望生活リハビリセンター六三四

学び：利用者の健康に配慮し、仲の良い雰囲気を大切にすること。

⑧ NPO 法人 小平・環境の会

学び：初めての経験だった。

無農薬野菜の作り方やおいしい食べ方について学んだ。

⑨ コミュニティサロン・さつき

気づき：互いに趣味の披露などで感心したり尊敬したりすることで、

心が温かくなる。気配りが大切。みんなでご飯を食べるって、いい。

(インターンシップ型)

⑩ 社会福祉法人 つむぎ

学び：障がいのある方への過度な手助けは、行動を制限する行為になってしまふことを学んだ。

⑪ 認定NPO法人 だれもがともに小平ネットワーク

学び：互いに意思を伝えるのが難しい中で、伝わった時に「やっていてよかったです」と思った。

⑫ 社会福祉法人 未来

学び：ゼミなどで言われていたことであったが、自分にコミュニケーション能力が乏しいことを実感した。

気づき：柔軟な対応をすることは大変。職員は落ち着いてできていてすごい。

14:45-14:55 休憩

14:55 グループで体験シェアリング

1グループ9人程度（学生6名、団体3名程度）で5グループを作り、各グループでは学生が進行役（進行、記録、発表者をその場で学生が決定）を担って行いました。一般参加者も参加していただきました。

15:45 交流会（5グループからの発表）

各グループでシェアしたことを、ポイントを3点に絞って発表し合いました。

①この事業に参加する学生のメリットは進路について考えること。

／ 団体のメリットは人材育成の場になる、欲しい若い力が得られる、新しい風が入るなど。／ 今後について、若い学年が参加するには、学校から情報発信やアプローチがあること、先輩から後輩へつながること。

②子育てを通じて困った人をサポートすることは、よい社会への活動になる。

／ 障がい者とかかわることで認め合うことに気付ける。

／ 環境に関して、自給自足を考えると無駄にはできないと気付く。

③子どもの活動のボランティアを通して、親がやめてほしいと思っているようなことでも子どもの成長に大切なことがあると学んだ。

／ 日頃関係を持てない人や事柄との体験を持ってよかったです。

／ この体験は後輩につなげて活かしたい。

④興味を持つことで視野が広がると学んだ。／ 身近なことから活動の現場へかかわることで、学生と団体との相互作用が生まれる。

／ 意図を掴んで、難しくても一生懸命行動することが大切だと学んだ。

- ⑤子育ての活動を通して、社会の変化への対応を考える。／高齢者への支援の活動を通して、気遣うことで潜入観念をこえられることを学んだ。／障がい者への支援の活動を通じて、コミュニケーションの大切さを学び、思いやること、目線を大事にすること、スキルアップをして「考え」を持つことを学んだ。

受け入れ団体より

- ・若者がどう考えているかを知ることができた。今後、伝えたいことを、どのようにしてわかるように届けていくかを考えたい。若者は対応能力がある。
- ・学生達を受け入れた夏は、団体スタッフにとっても研修期間と思っている。
- ・このセミナーは小さな刺激。日常の中で意識化してほしい。
- ・学生達の出会いは子供たちの出会いの場でもあった。
「気づき」に気がついたことが良かった。
- ・小平でずっと続いてきたことが素晴らしい。
- ・信頼できる学校側の紹介でボランティアが出来ることは、非常に恵まれた環境である。
- ・自分で考える力を身に着けることを主眼に指導した。
- ・学生の話を今後、後輩にも伝えていきたい。
- ・人と付き合う大切さ、楽しさを体験してもらった。
コミュニケーションの大切さを感じ取ってもらった。

各大学の先生より

- ・嘉悦大学では今年度、新しい学部が発足し、現段階では学生が4ヶ所程度のNPOに参加するようになった(2年生が主体)。(内田和夫 嘉悦大学教授)
- ・現場に出る体験ができること、安心して参加出来たことが良かった。
大学からも発信してほしいとの要望に対し、改善の余地があると思っている。
後輩学生には、自身の経験を伝えてほしい。(松島詩緒 文化学園大学助教授)
- ・学生に対応した受け入れプログラムを団体側が考えてくれたことに感謝。
NPOで活動している現役の学生がいることが嬉しかった。
今年(の活動・成果)は良かったと思う。学生とNPOの出会いも大切であるが、同時に小平でのNPO同士の出会いの場、団体間のチャレンジも必要。
(齋藤啓子 武蔵野美術大学教授・第11期推進委員長)
- ・(当事業は)11年目を迎え進化している。学内のカリキュラムでの実習以外にも、ボランティアへの体験が大事。また1年生から参加することが望ましい。
継続性を持たせることが大事である。(山路憲夫 白梅学園大学教授)

17:00 閉会挨拶

こだいら NPO ボランティアセミナー2014 推進委員 山路 憲夫 教授

(白梅学園大学)